

## 第4学年 社会科学習の指導

1 単元 わたしたちの住んでいる県「(1)福岡県の様子②」

2 目標 ((6)県の特徴ーイ主な産業の概要)

- 福岡県の工業，水産業，林産業の概要と特色が分かる。(理解)
- 自分たちの県の産業に関心を持ち，意欲的に調べるとともに，地域社会の一員としての自覚をもとうとする。(態度)
- 資料から必要な情報を集めたり，地図と資料，資料と資料を関連付けたりして，福岡県の製鉄・海苔・筍の生産量が多い理由を調べることができる。(能力)

3 本単元で活用を図る「読解力」

「取出」福岡県の工業，水産業，林産業の主な生産物とその分布について，資料を要約することができる。

「解釈」複数の資料を関連付けて，福岡県の工業，水産業，林業の主な生産物の分布と地形との関係を理解することができる。

「熟考」県の地形や産業の概要や分布に見られる特色のよさを，感想としてもつことができる。

※ 「読み方」の重点

- 形式段落の中のキーワードを見いだす。[連コ]
- キーワードを，他の文章とつないで敷衍して読む。[連リ]
- テキストとテキストの情報のつなぎ方が分かり，関係を認識する。[非コ]

4 指導観

- 本学級の児童は，下記の二つの調査から，社会科学習が大変好きであり，めあてに対する「取り出し」はできるが，「解釈」「熟考・評価」は不十分であるという実態が分かっている。

まず，読解力の調査では次のような結果が出ている（表一）。

表一 本学級児童の「読解力テスト」結果

	得点率 (%)			得点率が 50%以下 の児童数 (34 名中)
	その 1 問題	その 2 問題	合計平均	
「取り出し」	75.0	68.8	71.9	8 名
「解釈」	46.1	49.2	47.7	21 名
「熟考・評価」	47.9	14.6	31.3	23 名

この結果から，児童の読解力において，「取り出し」は既習であるが，「解釈」「熟考・評価」に関しては未習であることが分かる。それでも，「解釈」に関しては 50%近くを得点しており，潜在的な能力の高さが分かる。

次に，意識の調査では次のような結果が出ている（表二）。

表二 「社会科における書く活動の意識調査」（4 尺度選択）結果の市内 9 校の児童と本学級児童の比較

	質問項目	肯定 2 尺度の割合 (%)		
		※市内	本学級	比
関心意欲	社会科の学習は好きですか？	82	89	7
読解	教科書などの文章や，図，グラフ，表から，問いやめあてのに対する答えは分かりますか？	84	93	9
書く活動 ①	授業で考えを書く活動はありますか？	87	94	7
	その時，何をどのように書くか分かって書くことができますか？	81	85	4
	考えを書くことは好きですか？	71	75	4
書く活動 ②	授業の終わりにまとめを書く活動はありますか？	88	94	6
	その時，何をどのように書くか分かって書くことができますか？	80	84	4

まとめを書くことは好きですか？	74	78	4
-----------------	----	----	---

※「市内」＝福岡市小学校9校の4年生 867 人を対象に実施

各意識とも、市内全体の結果以上の高い様相を呈している。書く活動が「好きですか？」の問いに対してそれほど数値は下がらず、書く活動への抵抗感はあまりないと言ってよい。そのことは、ほぼ未習に近い「解釈」に関する学習を進めるのに有効に働くであろう。

- 本小単元は、自分たちの住む福岡県の地形と土地利用の関係や、産業のうち農業に関しては既習の上で展開する、福岡県の工業、伝統的工業、水産業、林産業に関して、地形との関連からその特色を見いだす学習である。

前小単元の導入で、大きな学習問題として、「わたしたちの住んでいる福岡県の平地や山地、海ではどんなものがつくられたりとられたりしているのか調べよう」を設定している。そして、地形と土地利用の関係を押さえた上で、産業をその地形や人々の工夫と関連付けながら特色を学習してきた。本小単元においても、地形や人々の工夫と関連付けながら学習を展開できる。

工業は、以前日本の四大工業地帯と呼ばれ、自動車工業などに供給する製鉄業が盛んな北九州市を特色として取り上げる。その際に、原料を輸入し、製品を輸出する加工貿易の典型として押さえながら、船での運搬を理由に海の近くに工場が建ち並んでいる特徴を地形との関連としてとらえさせることができる。

伝統的工業は、主に博多人形と久留米がすりを取り上げる。福岡市油山の粘土を使った博多人形、久留米に伝わる技術で織り上げる久留米がすりは、地形（土地利用）からの特色や人々の工夫（技術）からの特色として取り上げる意義がある。

水産業は、福岡県のまわりの海（筑前海区・豊前海区・有明海区）の様子と主な水産物を押さえた上で、生産量の最も多い有明海区の中でもその 86 %を占める海苔の養殖を取り上げる。生産量が多いということだけでなく、広がる干潟や人々の努力からの特色に意義がある。干潟に関しては、筑後川・矢部川の豊富な栄養分が流れ込み、干満の差が6 mと大きく生長を促進する干出しができ、潮が沖の方まで引くことによる作業の簡便さがそのよさとして挙げられる。人々の努力に関しては、病気予防のための検査・管理、網の調節、真冬の作業といった点が、経験のない児童にもその大変さが分かりやすいと言える。

林産業は、きのこやたけのこなど、食品となる生産物の生産額が多く、特に、全国1位で全国の3分の1を生産しているたけのこづくりは特徴的な産業と言える。赤褐色の粘土質の土という地形だけでなく、間伐や肥料やり、迅速な収穫など人々の工夫という要因も分かりやすい。

それらの産業について学習することによって、それぞれの土地を生かし、人々が工夫し努力する産業について知り得、自分の住んでいる福岡県に誇りを感じることができる小単元である。

- そこで指導にあたっては、すべての地に見学に行くことができないという理由から、副読本「よいこの社会科」というテキストを中心に、地図帳などの他のテキストも合わせながら、主に次のようなテキストの解釈を書く活動を充実させていく。

工業は、文章、地図、写真を関連付け、海の近くに工場が多いわけを解釈させる。伝統的工業は、文章の段落構成に着目させ、まとめの段落の言葉とつながる事例の言葉から、その産業の特色をつかませていく。水産業は、文章の言葉に疑問をもたせ、他の資料とつないでその言葉の意味を具体化していく。林産業は、文章の段落構成に着目させながら、他の資料ともつないで言葉の意味を具体化していく。このような解釈を書く活動を【書く活動1】として仕組むようにする。

さらに、各時間の終末で、めあてに戻ってその答を書きまとめる【書く活動2】を仕組む。そのために、必要となる書き出しやキーワードを、板書を振り返りながら明確にしていく。

## 5 学習指導計画（8時間）

過程	時	主な学習活動と指導上の留意点(※)
		◆「読解力」表(P6表-3・P7表-4)との関連 [連：連続型 非：非連続型]
つかむ	1	1 地図と土地利用図から、めあてをつかむ。 —— 学習のめあて —— わたしたちが住んでいる福岡県の平地や山地、海では、どんなものがつくられたりとられたりしているのか調べよう。
た		2 予想を書き、調べる計画を立てる。

3 福岡県の工業の概要と特色を調べる。

(1) 地図資料「福岡県の工業分布」を基に、福岡県の工業製品と分布を白地図に書く。

◆[非工]

(2) 気付いたことを書く。【書く活動1】



※ 立体地図と関連付ける「読み方」で、「工業は平地が盛ん」に気付かせる。◆[非工]

(3) 文章資料「世界とつながる北九州市の工業」の、海の近くに工場が多いわけが分かる言葉に線を引く、説明している言葉とつないで意味を読み取る。【書く活動1】

※ 理由の文末表現に気を付けたり、意味がよく分からない言葉を見付けて疑問をもったりする「読み方」を示す。◆[連行][連加][連コ]

※ 「鉄鉱石が外国から船で運ばれてくるので、海の近くに工場があった方が便利」はどのように便利なのか問い、工場までまた運ぶ手間や鉄鉱石の重さなどを想像させることで「便利」という言葉の意味を理解させ、産業と地形の密接な関係性をとらえさせる。◆[連コ]

※ 写真資料「工場の近くにとまる船」から全体とつながりを考えさせる。◆[非工]

(4) 文章資料「世界とつながる北九州市の工業」に書かれている輸入と輸出の流れを、図に書いて話し合い、まとめる。【書く活動2】

※ 「原料」「外国」「製品」「外国」のキーワードで書きまとめる「まとめ方」を示す。



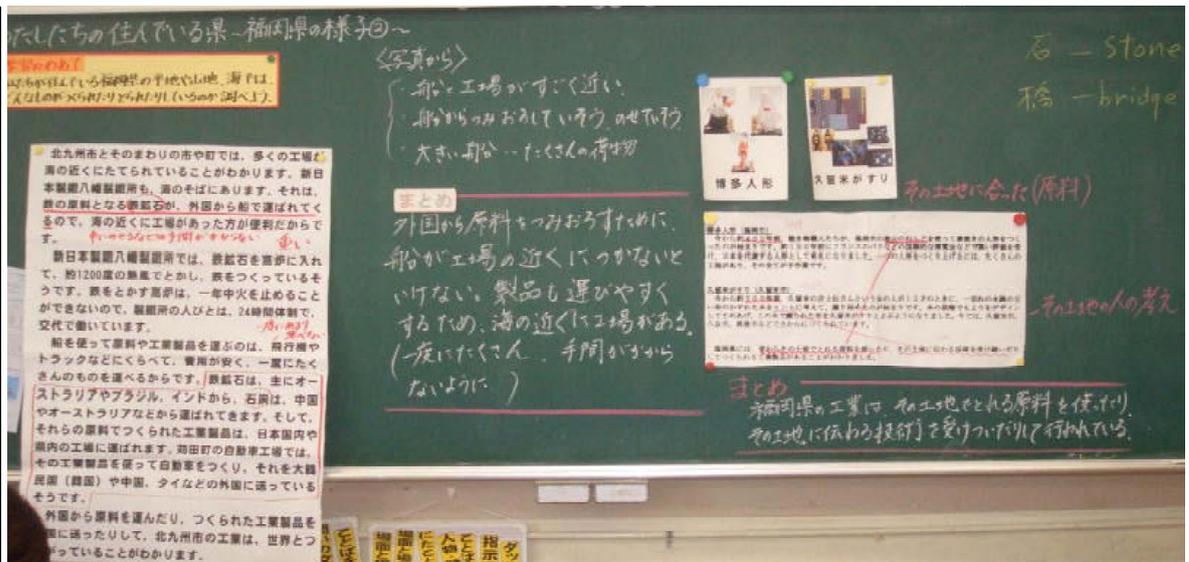
(5) 文章資料「博多人形と久留米がすり」の大事な言葉に線を引く、伝統的な工業がその土地の原料やその土地に伝わる技術によって受け継がれていることを読み取る。【書く活動1】

※ 伝統的な工業の様子がよく分かるキーワードを見付けるために、博多人形の段落と久留米がすりの段落を比較させ、違いを見付ける「読み方」を示す。◆[連行]

(6) 線を引いた言葉を基に、伝統的な工業の特徴を話し合い、まとめる。【書く活動2】

※ 二つの段落のキーワードの違いと、まとめの文をつないで、まとめの文の言葉の意味を具体化して理解させる。◆[連行]

※ 「原料」「技術」をキーワードにする。



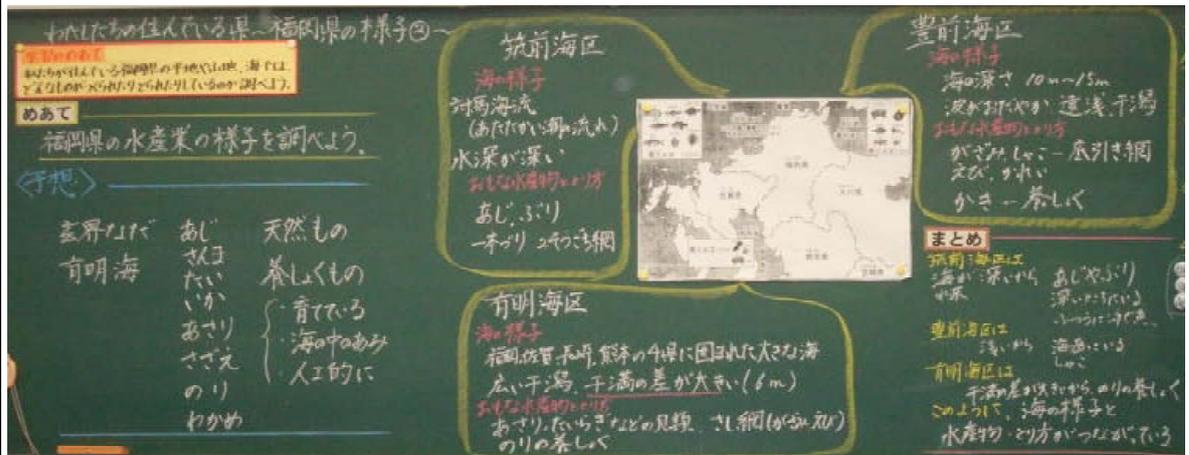
福岡県の水産業の概要と特色を調べる。

(1) 地図資料と文章資料「福岡県のまわりの海の様子とよくとれる主な水産物」から、水産業の様子を書く。【書く活動1】(要約)

※ 海の様子、主な水産物ととり方の2点から要約する「読み方」を確認し、書きまとめやすい学習プリントを準備する。◆[連コ][非エ]

(2) 出し合い、三つの海区の違いをまとめる。【書く活動2】

※ 「三つの海区の海の様子」「海の様子に最も関係している水産物ととり方」「『このように』を使った二つの関係」の3点で書きまとめる「まとめ方」を示す。



(3) グラフ資料「福岡県の漁業生産量」、文章資料「有明海の干潟」からのりの養殖がさかんなわけを書く。【書く活動1】(要約)

※ わけがいくつ書いてあるか問い、線を引いて要約する「読み方」を示す。◆[非カ][連ス]

(4) のりの養殖がさかんなわけを話し合う。

※ 「栄養分」に疑問をもたせ、地図資料「有明海の干潟」、文章資料「ゆたかな海 conditions」とつないで、「栄養分」の意味を詳しくする「読み方」を示す。◆[連リ][連エ][非コ][連リ]

※ 「空気にふれるのでのりの育ちがよい」に疑問をもたせ、文章資料「有明のおいしい海苔」とつないでその理由を見付ける「読み方」を示す。◆[連リ][連リ]

※ 「潮が沖の方まで引くので仕事がしやすい」に疑問をもたせ、文章資料「有明海でのりの養殖方法」とつないでその理由を見付ける「読み方」を示す。◆[連リ][連リ]

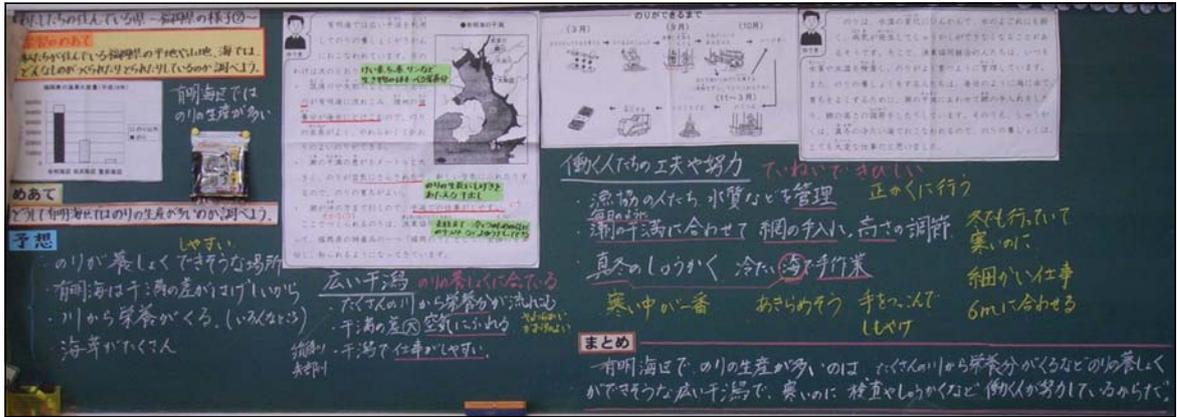
(5) 文章資料「のりができるまで」からのりの養殖の仕事の様子を書く。【書く活動1】(要約)

※ 要約する「読み方」を示す。◆[連ス]

(6) のりの養殖の仕事について話し合い、まとめる。【書く活動2】

※ 仕事の中で特に大変だと感じたものを選び、選んだ理由を問い、自分の知識や経験から想像する「読み方」を示す。◆[連/][連:]

※ 「干潟」「人々」というキーワードを基に、2点から、有明海区でのりの養殖がさかんなわけを書きまとめる「まとめ方」を示す。



福岡 6 5 福岡県の林産業の概要と特色を調べる。

(1) 地図資料「福岡県の林産物の種類」、図資料「福岡県の主な林産物の生産量」、グラフ資料「たけのこの生産力の全国にしめる割合」を基に、林産業の概要を知る。◆[非E][非F]

(2) 文章資料「県庁の人の話」「合馬観光たけのこ園富岡さんの話」から、たけのこ生産がさかんなわけを書く。【書く活動1】(要約)

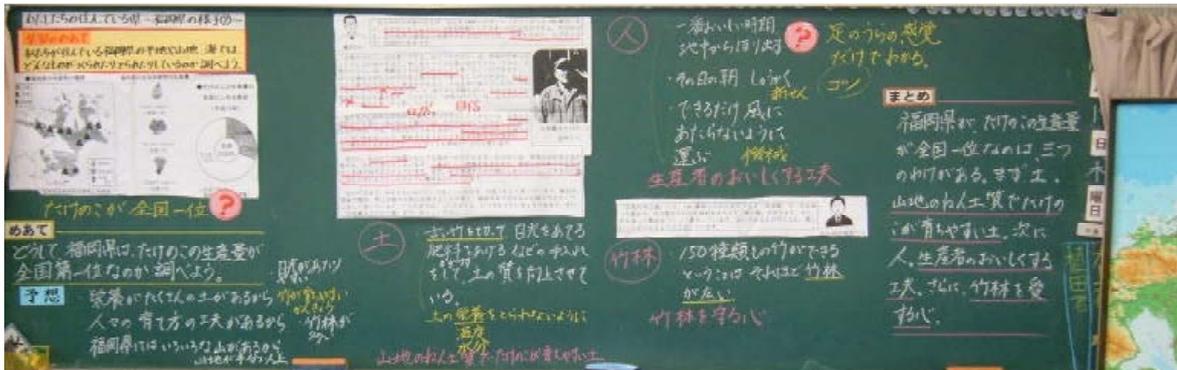
※ わけがいくつ書いてあるか問い、線を引いて要約する「読み方」を示す。◆[連:]

(3) 合馬地区でたけのこの生産がさかんなわけを話し合い、まとめる。【書く活動2】

※ 福岡県の立体地図や文章資料「日本一の合馬の筍」とつないで、土の管理の大切さを理解させる。◆[非E][連/]

※ 文章資料「北九州市役所の人の話」から、心の大切さを理解させる。◆[連:]

※ 「土」「人」「心」のキーワードを確認して、書きまとめる「まとめ方」を示す。



ひま 7 6 「福岡県の自まん」を書き、発表する。

ろと ※ 土地の特色、人々の工夫や努力からまとめる「まとめ方」を示す。

げめ 8 7 評価テストを行う。

る

## 6 本時の目標 (5/8 福岡県の水産業～海苔の養殖～)

- 地形や人々の工夫から有明海で海苔の養殖が盛んなわけが分かり、福岡県の水産業の特色を理解することができる。
- 海苔の養殖が盛んなわけを、意欲的に調べることができる。
- 他の資料と関連付けて、文章資料中の疑問を解決し、有明海で海苔の養殖が盛んなわけを調べることができる。

## 7 本時指導の考え方

児童は前時に、福岡県の水産業の概要を、筑前海区・豊前海区・有明海区の海の様子と主な水産物から押さえている。さらに、有明海区の生産量が多いことから海苔の養殖に着目している。

本時は、なぜ有明海で海苔の養殖が盛んなのか調べ、福岡県の水産業の特色をまとめる学習である。

そこでまず、海苔の養殖が盛んなわけを問題意識としてもたせるために、グラフ資料「福岡県の漁業生産量」を示し、大半が有明海区産であり、その86%が海苔であることの驚きを演出する。

次に、予想をこれまでの地形など自然条件と働く人々の工夫や努力の面から考えさせる。そして、その予想が合っているかどうか、文章資料「有明海の干潟」の要約（【書く活動1】）を通して確認させる。その際に、「栄養分」「空気につれるのでのりの育ちがよい」「潮が沖の方まで引くので仕事がしやすい」の意味がよく分からないという意識から、他の資料との関連付けの必要感をもたせる。関連付けることによって、有明海の「干潟」という特色ある地形（自然）と海苔の養殖が合っていることを、実感させる。さらに、文章資料「のりができるまで」の要約（【書く活動1】）を基に、自分の知識や経験とつないで想像させることで、働く人々の大変さを自分のことのように実感させる。

最後に、「干潟」「働く人々」を基に板書で本時学習を振り返り、キーワードを確認して【書く活動2】を行う。

## 8 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点
1 本時学習のめあてをつかむ。 (1) 本小単元の学習問題を確認する。	◆「読解力」表(P6表-3・P7表-4)との関連 [連:連続型 非:非連続型] ※ 教室掲示の学習の足跡を確認させる。
わたしたちの住んでいる福岡県の平地や山地、海ではどんなものがつくられたりとられたりしているのか調べよう。	
(2) グラフ資料「福岡県の漁業生産量」から、本時学習のめあてをつかむ。	※ 有明海を生産量の86%が海苔であることから、その理由を疑問にもたせる。◆ [非オ]
どうして、有明海ではのりの生産が多いのか調べよう。	
2 有明海で海苔の養殖が盛んなわけを調べる。 (1) 予想を書く。 ○ 干満の差が大きいから。 ○ 海苔が育ちやすいから。 ○ 働く人々ががんばっているから。 (2) 文章資料「有明海の干潟」からのりの養殖がさかんなわけを書く。 【書く活動1】(要約) (3) のりの養殖がさかんなわけを話し合う。 ○ 干潟に関して ・筑後川・矢部川の豊富な栄養分が流れ込むこと。 →生き物の体をつくる「栄養分」 ・干満の差が6mと大きく、生長を促進する干出しができること。 →空気にさらず「干出し」 ・潮が沖の方まで引くことによって、作業が簡便になること。 →支柱を何本も立てる時間	※ 教室掲示の学習の足跡を基に、地形など自然条件と働く人々の工夫や努力から考えるように助言する。 ※ わけがいくつ書いてあるか問い、線を引いて要約する「読み方」を示す。◆ [連ス] ※ 机間指導しながら児童の読み取りを把握し、その児童が挙手しない場合は指名する。 ※ 「栄養分」に疑問をもたせ、地図資料「有明海の干潟」、文章資料「ゆたかな海の条件」とつないで、「栄養分」の意味を詳しくする「読み方」を示す。◆ [連イ][連エ][非コ][連ノ] ※ 「空気につれるのでのりの育ちがよい」に疑問をもたせ、文章資料「有明の美味しい海苔」とつないでその理由を見付ける「読み方」を示す。◆ [連イ][連ノ] ※ 「潮が沖の方まで引くので仕事がしやすい」に疑問をもたせ、文章資料「有明海でのりの養殖方法」とつないでその理由を見付ける「読み方」を示す。◆ [連イ][連ノ]

(4) 文章資料「のりができるまで」から海苔の養殖の仕事の様子を書く。

【書く活動1】(要約)

(5) のりの養殖の仕事について話し合う。

- 人々の努力に関して
  - ・病気予防のための検査・管理  
→いつも気にかける気配り
  - ・網の調節  
→毎日の細かい作業
  - ・真冬の作業  
→寒さ、冷たさとの戦い

3 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめる。

- (1) キーワードを確認する。
  - 「干潟」…「川の栄養分」「干満の差」「潮が沖の方まで」
  - 「働く人々」…「検査・管理」「網の調節」「冬の作業」
- (2) 「今日の学習で」を書きまとめる。
  - 【書く活動2】

(3) 数名が発表する。

※ 要約する「読み方」を示す。◆[連ス]

※ 机間指導しながら児童の読み取りを把握し、その児童が挙手しない場合は指名する。

※ 仕事の中で特に大変だと感じたものを選ばせ、選んだ理由を問い、自分の知識や経験から想像する「読み方」を示す。◆[連ノ][連ミ]

※ 発問・指名・問い返しを繰り返しながら出し合わせ、深めていく。

※ 板書を基に、「干潟」「働く人々」を振り返り、キーワードを問う。

※ キーワードを使っているか助言しながら、机間指導を行う。

9 本時の授業プラン

10:50 本時の学習で学んでいる大切なことを話し合う。

10:52 学習で学んだ大切なことを話し合う。

10:53 干潟の差が大きい干潟

10:57 干潟の差が大きい干潟

11:01 干潟の差が大きい干潟

11:03 干潟の差が大きい干潟

11:05 干潟の差が大きい干潟

11:07 干潟の差が大きい干潟

11:09 干潟の差が大きい干潟

11:11 干潟の差が大きい干潟

11:13 干潟の差が大きい干潟

11:15 干潟の差が大きい干潟

11:17 干潟の差が大きい干潟

11:19 干潟の差が大きい干潟

11:21 干潟の差が大きい干潟

11:23 干潟の差が大きい干潟

11:25 干潟の差が大きい干潟

11:27 干潟の差が大きい干潟

11:29 干潟の差が大きい干潟

11:30 干潟の差が大きい干潟

表-3 連続型テキスト(説明的文章)の「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	連続型テキスト(文章)を読解する力	具体的な「読み方」
I 情報の取り出し	1 事実と意見を区別する力(文種判断) 2 大事な言葉を見付ける力(キーワード発見)	ア 文末表現から事実と意見を区別する イ 題名や文章の言葉の意味に疑問をもつ(5W1Hで?)を作る ウ 指示語の指す言葉を見付ける エ 題名の類縁語や題名につながる言葉(キーワード)を見付ける オ 疑問詞や文末表現を基に、問いの文を見付ける カ キーワードや文末表現から理由になる文を見付ける キ キーワードや文末表現から問いの文に対する答の文を見付ける
	3 大事な言葉を基にまとめる力(要約)	ク 形式段落に番号を打つ ケ 形式段落の中の最重要文を題名や問いの文とつないで見いだす コ 形式段落の中のキーワードを見いだす サ 時間の順序や事柄の順序を読む シ 接続語を基に主張と事例を区別する ス 形式段落の要点をまとめる セ 接続語や形式段落の要点を基に文章を意味段落に分け、小見出しを付ける ソ 意味段落の小見出しや形式段落の要点を基に、文章全体を要約する
II テキストの解釈	4 言葉と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力(想像) 5 言葉を外したり比べたりして意味を理解し説明する力(比較) 6 言葉と言葉などをつないで意味を理解し説明する力(関連付け) 7 事例にキーワードバックして抽象的な言葉の意味を理解し説明する力(関連付け) 8 筆者の意図を推論し説明する力(推論)	タ 題名やキーワードを、自分の知識や経験とつないで敷衍して読む チ 修飾語などの言葉を外して比べ言葉の意味を読む ツ 類縁語と比べて、言葉の意味を読む テ 段落と段落を比べて、共通点と違いを読む ト 別の助詞に置き換えて、助詞の意味を読む ナ 別の文末表現に置き換えて、文末表現の意味を読む ニ 段落の中で、中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで、文脈における固有の意味を読む ヌ 段落を越えて、中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで文脈における固有の意味を読む ネ さし絵や写真などと言葉をつないで、言葉を敷衍して読む ノ キーワードを、他の文章とつないで敷衍して読む ハ まとめの段落の言葉を、外したり比べたりして読む ヒ それまでの言葉や事例とつないで、まとめの段落の言葉の文脈における固有の意味を読む フ 題名とまとめの段落の言葉の意味をつないで、要旨をまとめる ヘ (接続語を基に)文と文、段落と段落を比べて、繰り返し表現、事例の数や事例の順序、関係から、筆者の設定の意図を読む ホ 引用の意図を読む マ 題名に返り、この題名で何を伝えようとしていたか、筆者の意図を読む
III 熟考・評価	9 筆者の主張や意図に対する自分の考えをもち、論述する力(内容批判) 10 文章の表現方法(論理展開や表記)の妥当性を評価する力(表現批判)	ミ まとめの段落への納得や驚きの実感を表現する ム 筆者の主張や筆者の意図と、自分の見方・考え方を比べて、感想をもつ メ 筆者の論理展開に対して感想をもつ モ 筆者の表記(書き表し方)の特徴を見付けて感想をもつ ヤ 筆者の論理展開を活用して、他の対象で再構成する

表-4 非連続型テキストの「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	非連続型テキスト(図、グラフ、表)を読解する力	具体的な「読み方」
I 情報の取り出し	1 各種のテキストから必要な情報を読み取る力(言語化・数値化)	ア 表題や出典などを確認する イ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、矢印や括り、位置などから、上位・下位概念、包含関係、時間経過などを言語化する(図) ウ 国語科の既習を活用し、言語化する(写真・絵) エ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、方位、縮尺、地図記号、土地の高さ、分布項目などに留意して言語化する(地図) オ 算数科の既習を活用し、目的に応じて、縦軸と横軸に着目して数値化する(グラフ) カ 算数科の既習を活用し、目的に応じて、項目に着目して(二次元表の場合はクロスの意味も考えて)言葉や数値を取り出す(表) キ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、時代名や年号の並び、関連する出来事に着目して、情報を取り出す(年表)
II テキストの解釈	2 情報と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力(想像) 3 情報の違いや変化を理解し説明する力(比較) 4 他のテキストとの関係を理解し説明する力(関連付け) 5 社会的事象の意味を理解し説明する力(関連付け) 6 テキストを提示する意図を推論し説明する力(推論)	ク 目的に応じて、一部分を詳しくとらえたり全体を大まかにとらえたりして、自分の知識や経験とつないで敷衍して読む ケ テキストの情報を比較し、共通点や相違点を見いだす コ テキストとテキストの情報のつながり方が分かり、関係を認識する サ 一つのテキストの中や、複数のテキスト間における関係の認識を基に、因果、包含、変容、深化、具体化(拡張、多面化)、抽象化(収斂)などの関係性を見いだす シ 意味認識を基に、提示者の主張の明瞭性、具体性、強調性を明確にする
III 熟考・評価	7 関連付けるテキストの種類を評価する力(内容批判) 8 関連付けるテキストの表現を評価する力(表現批判)	ス テキスト提示の目的に合致しているかどうか、他の種類のテキストと比較して検討する セ テキスト提示の目的に照らして、テキストの範囲(部分⇄全体)や明瞭性を検討する